



入学式を挙行了しました

4 月 8 日 (月) に新入生 276 名を迎え第 41 回入学式を挙行了しました。入学式では新入生を代表して、**高荒夏帆**さん (船迫中出身) が宣誓文を読み上げ、入学への心構えと抱負を述べてくれました。ご多忙の中ご臨席賜りました皆様、ありがとうございます。



いました。今年も北高生は精一杯チャレンジしていきます。

新入生宣誓 第四十一回入学学生代表 高荒夏帆 (船迫中出身)



名取北高等学校のクロマツに吹く暖かな風に包まれ、希望と夢に満ちあふれ、今、私たち 276 名は入学を許可していただきました。本日は私たちのためにこのような素晴らしい入学式を挙行していただきありがとうございます。ごさいます。

九年間の義務教育を終え、ここに至るまでに家族や先生方、地域の方々に支えていただきました。感謝の意を示すとともに自身の向上をを図るため、学習や部活動に、より一層力を入れていきたいと思っております。

これから始まるうとして生に不安もありますが、それ以上に大きな期待で一杯です。先生方や先輩方のご指導を仰ぎながら、自らの目標へと日々努力を重ねていく覚悟です。名取北高等学校の北という漢字には「上に向かう」という意味が込められています。今、ここで出会った 276 名の仲間とともにこの校名に恥じぬよう一人ひとりが責任を持って高

校生活を送ることをここに宣誓いたします。

平成三十一年
四月八日



A I (人工知能) に真似できない人間力の育成 ～来るべき社会への心構え～

宮城県名取北高等学校長 挽地裕之



人の一生にそれぞれの時節があるように、学校にも時節というものがあります。本校は 2018 年に創立 40 周年を迎えました。産声をあげた子どもが 40 歳を迎えたのと同じと考えれば、創業の 30 年から守成の 50 年に向かう時節と考えてよいでしょう。それは青春の時に体験し学び取った「知識」を、次代へとつなぐ「知恵」に高める時節と言えます。社会に眼を転ずれば、近い将来、A I 型自動レジを備えたコンビニや自動運転する自動車が普及し、不足する労働力が確保されたり、手間のかかる作業が安全で確実に代行されたりと、私たちの生活はさらに快適になると言われています。A I (人工知能) にできることは機械に任せ、A I には真似できないことを人間がする時代の到来と言えます。ところで<A I には真似できない人間力>とは何でしょうか。私たちはそれを真剣に考えなければなりません。A I が人間の仕事を奪うと言われるますが、人間の能力の一部を A I が代行することで新たな職種が創出されるようになるでしょう。その時に必要となるのが<人間力>なのだと考えます。主役が常に人間であるならば、生身の人間にしかわからない価値があるはずで。どんなに機能的なモノでも、そこに人間的な温もりや美しさという付加価値が備わっていなければ、人はそのモノを手にすることはないでしょう。これからの「学び」は、自らの五感を大いに発揮してさまざまな事柄を体験し、そこからかけがえのない言葉を紡ぎ出して「知恵」にすることが求められているのです。便利な今だからこそ、直接人々が一堂に会し共に切磋琢磨しなければ得られないことがある。仮想現実ではなく、現実体験することの価値がもっとも高く評価されるようになるでしょう。<学校>とはまさにそれが可能な場なのだと私は考えています。生徒の皆さん、失敗を恐れず、どんなことでも果敢に挑戦し、充実した高校生活を本校で過ごしてください。保護者・地域の皆さん、どうか温かく生徒たちをご支援くださいますようお願い申し上げます。(生徒や保護者が)入ってよかった、(職員が)勤めてよかった、(地域社会にとって)あってよかった学校となるよう努めて参りたいと思います。

対面式を行いました

4 月 9 日 (火) に新入生と 2・3 年生が初めての顔を合わせる機会として、対面式を行いました。**半田耕大**生徒会長から歓迎の言葉が話され、新入生代表として**加納桃** (中田中出身) さんから北高生となる決意表明が話されました。827 名の北高生の皆さん今年も力を合わせ様々な行事に取り組んでいきましょう。

対面式新入生代表挨拶 加納 桃 (中田中出身)



長い冬が終わり、草花や生き物が元気に活動する季節となりました。こんな華やかな風の中、名取北高等学校の一員として迎えていただけることを嬉しく、誇らしく思います。思えば昨年の夏、高校見学にお邪魔した私たち中学生を先輩方は気さくに明るく迎えていただき、部活動の楽しさはもちろん学校生活についてでも丁寧に教えてくださっていました。合格発表の時も校門にいらつしやった先輩からいおかげで温かい歓迎の言葉のスタートが切れました。その節はありがとうございました。この風になに温かい名取北高校の校風だと思います。そして来年には頼られる優しい先輩となれるよう努めて参りますので、指導・ご鞭撻いただきまして。新入生代表の挨拶



今月は、名取市増田児童センター館長の久保允様（本校二十三年生）にインタビューしました。久保様は岩手県釜石市のご出身で、小学五年生から、名取市で生活をされています。本校卒業後は小学校の教員を志し、盛岡大学で児童教育を学ばれました。その後、児童館でのお仕事に就かれています。

名取市増田児童センター館長 久保 允 様

高校時代の思い出は

A Q 3年間サッカー部に所属し、チームとして仲間と協力する喜びや楽しさを学びました。また、2年生の後半からは生徒会長を務めさせていただき、生徒会活動の中で生徒の代表として取り組みを進めていく難しさや人前で話をする面白さを経験しました。

現在のお仕事の魅力は

A Q 児童館は子どもたちが遊びや生活を通して、たくさん経験や、様々な思いを感じながら成長していくことができる場所です。その一瞬一瞬に寄り添い、一緒に過ごしていく中で子どもたちの「うれしい!」「楽しい!」と一緒に感じ、分かち合える。その瞬間が私たち児童厚生員にとっての喜び、魅力だと思っています。

本校生徒の印象は?

A Q 奉仕活動部の皆さんが児童センターにボランティアで来てくれます。いつも誠実に、優しく子どもたちと関わる姿に感謝しています。

若者に期待することは?

A Q 私は学生時代に「今の自分が一番楽しい!輝いていたい!」と思っていました。大人になった今も、もっと輝いていたいと思っています。皆さんにも大人になることを楽しみにしてほしいです。そして、キラキラした大人の姿を見せることが私たち大人の大切な役目だと思っています。大人になるって楽しいですよ。今をゆつくり楽しんで、素敵な大人になってください。

OBとして北高生にメッセージをお願いします。

A Q 私は小学校の教員を目指していましたが、児童教育を学んでいたことにより、今の仕事に就くことができました。また、高校生活での部活・生徒会での経験が今、確実に活かされています。思い通りの未来だけではないかも知れませんが、自分が経験してきたもの、身に付けてきたことは必ず意味があります。経験に無駄なことなんてありません。これまでの経験を大切にしてください。そしてこれから出会う出来事、人を大切にしてください。たくさんの素敵な出会いや出来事が皆さんを待っています。



なとラジ市長対談番組「こんにちは!しろうです。」に出演しました

3月28日(木)に「なとラジ市長対談番組」「こんにちは!しろうです。」に名取市出身の新3年生2名が出演しました。学校紹介や名取市の好きなところ、将来の名取市等について市長さんと対談しました。市長さんを始め関係者の皆様ありがとうございました。

「こんにちは!しろうです。」に参加して

岡部敦輝 (3年・増田中出身)

最初は名取市長さんに対談するということが緊張していましたが、実際にお目にかかるとうきうな方で緊張がほぐれました。おかげでラジオの収録中は楽しく話をすることができました。市長さんには名取市の好きなところ、名取市に対する思い等を質問され、改めて名取市について考えることができました。市長さんは本当に名取市のことが好きなんだということを実感しました。私は、将来、町に緑を増やしていく仕事をしてみたいと考えています。これを機に、名取市のボランティア活動や植樹祭に参加して、名取市の自然豊かな町づくりに貢献していきたいと思っています。人生で初めての体験でしたが、有意義な時間を過ごせたと感じています。この経験を今後の生活に生かしていけるよう取り組んでいきます。



「こんにちは!しろうです。」に参加して

高橋大智 (3年・名取二中出身)

名取市出身の生徒の代表として選ばれ、また、初めての経験ということもありとても緊張しました。言いたいことを言えるかどうか不安でいっぱいでしたが、市長さんにその場の雰囲気を和ませていただいたこともありリラックスをしてお話することができました。市長さんとの対談では、名取市の住みやすさを再確認することができました。このような経験は中々できることではないので、とても誇りに思います。この経験を生かして、名取市のよいところを知らない人たちに伝えていきたいと考えています。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。



華道部名取市役所展示会に参加して

3月25日(月)~28日(木)に華道部が名取市役所で展示会を行い、日頃の活動の成果を発表しました。ご観覧いただきました皆様ありがとうございました。

名取市役所に展示して 大友真波 (3年・名取一中出身)

名取市役所の展示会では、今年も多くの方が見に来てくださいました。華道部員全員がそれぞれ個性を活かし一生懸命命を生けていました。普段とは違う形で花を生けることや、使用したことのない花器に挑戦したりもしました。新しい方法を学ぶことができて、また一つ成長できたと感じています。これからも様々な花型に挑戦し、多くの人に感動を与えることができるように頑張っ取り組んでいきたいと考えています。お出でいただいた皆様ありがとうございました。

